

主体的にコミュニケーションを図り、自然なやり取りができる生徒の育成

～自分の思いを伝えようとする意欲を高める言語活動の充実～

由利本荘市立本荘南中学校 教諭 池田 勇作

1. はじめに

由利本荘市では、令和元年度から「拠点校・協力校英語授業改善事業」を通して県内大学等と効果的に連携して、外国語活動・外国語（英語）担当教員の指導力及び英語力の向上を図るとともに、モデルとなる実践事例を県内の他校に提供することにより、当該校の成果の普及を図ってきた。令和3年度は、鶴舞小学校と本荘南中学校が拠点校として研究を進めた。

本荘南中学校では、研究内容として、次の4つに取り組んだ。

- ① 英語による言語活動の充実
- ② 指導の改善及び評価の在り方
- ③ 外国語（英語）担当教員の英語力及び指導力の向上
- ④ 校種間の連携の在り方

今回は、②「指導の改善及び評価の在り方」の、特に「即興で話すこと」を中心とした研究に焦点を当てて、指導事例を紹介することとする。

2. 公開研究会（R3/12/9）に向けての取組

（1）より自然なやり取りにするための指導の工夫

対話を継続・発展させるために必要なスキルの定着を図ることができるよう、ALTのクリスチャン先生の提案でKey QuestionsとUseful Phrasesを作成し、提示した（下記一覧参照）。ALTと何度も話し合いを重ね、ねらいを達成するために必要と思われる表現をリストアップし、活用できるようにした。

また、授業では、コミュニケーションの大切な要素として①Catch ball, ②Giving examples,③Giving reasons,④Giving explanations,⑤Sharing ideas, ⑥Asking opinionsの6つの視点を意識するように生徒に働きかけた。



Key Questions	Useful Phrases
Why do you think so?	Please tell me more.
What can we do for that?	Can you explain some more?
What can we do in our school / at home / in Honjo?	Any other ideas?
What do you think about () ?	What do you mean? / I mean that () .
What will you do for that?	I think / I feel that () because () . For example, () . <u>Education makes us equal / better / smarter.</u> ↑ユニセフポスターに生徒が考えたキャッチフレーズを入れる

これらの表現は、本時のゴールとなるやり取りのモデル提示でも活用。

(2) 「社会的な話題」を自分事として捉えられるような取組

これまで「社会的な話題」を扱うことは非常にハードルが高く、中学3年生でさえも難しいのではないかという不安があった。どのようにすれば「自分事」としてとらえ、よりインタラクティブな活動へつなげることができるのかということが、今回の研究授業の核となった。英語の授業だけでなく、社会科の歴史分野やSDGsの視点など、教科横断的な内容と関連付けながら、やり取りに必要な情報を逆算してインプットする必要性を感じた。

また、単元のゴールに向けた帯活動 (one minute talk) にも力を入れた。単元に関連する話題についてペアを替えて複数回やり取りすることで、表現の幅が広がり、即興でのやり取りへの抵抗感を軽減させることができた。具体的には、5回1セットで、1回目は横ペアで30秒間、2回目は縦ペアで40秒間、3回目は斜めペアで50秒間、4回目は横ペアで1分、5回目は3分間でwritingして、話したことを書くことに生かせるようにした。

【Unit5 振り返りカードより】帯活動で話した内容を、書く活動へとつなげる取組

●次の質問に答え、その後15題以上で自分の考えを英文で書きなさい。 Speaking (one minute talk) → Writing

Q1. What is the most important thing to you?
 The most important thing to me is (talking with my friends).
 Because it makes me happy. I want to be good friends with each other.

●次の質問に答え、その後15題以上で自分の考えを英文で書きなさい。 Speaking (one minute talk) → Writing

Q2. What do you think of (discrimination)?
 I think (that there is not discrimination in our class).
 I have two reasons. First, we don't leave our friends. Second, everyone talks to many friends. I will continue to talk with many friends.

●次の質問に答え、その後25題以上で自分の考えを英文で書きなさい。 Speaking (one minute talk) → Writing

Q3. (What's your catchphrase?)
 It's hope for every child.
 Because we can have hope, but some children can't have hope.
 I think an environment where every child can have hope is important.
 I will donate money to unicef for that.

帯活動では、単元のゴールに関連する内容を扱った。
 WritingはALTに添削してもらい、返却している。語数は高校入試を意識したものとしている。

教師側が4つのキーワード (discrimination、independence、non-violence、human rights) を提示し、そこから1つ選んで、自分の考えとその理由を表現した。

本時の授業後、自分が考えたユニセフポスターのキャッチフレーズに関して表現した。社会的な話題ではあるが、自分事として捉え「心地よい場所」とその理由を書いている。

※3つとも原文ママ

(3) 公開研究会、授業協議会より

協議会では、①伝え合う言語活動、②即興での発信力に関してグループ協議を行った。授業改善のキーワードとして、次のようなものが挙げられた。

- 生徒同士の相互評価によるレベルアップ
- より良いコミュニケーションのための支援として
- 自己の変容を促す教師の適切なフィードバック
- 個人・ペア・グループ・全体等柔軟な活動形態の工夫
- 複数回のやり取りを通じた内容の深化

3. 成果と課題

<成果>

◎生徒の英語学習に対する意欲の向上〔授業アンケート9項目中8項目で改善〕

- ・「学習課題やめあてを意識して授業に臨んでいる」87.6%（7月）→97.9%（12月）
→言語活動の目的・場面・状況を明確にするように心がけたことと、CAN-DO形式の目標提示により意識が向上したことが、要因として考えられる。
- ・「先生や友達の意見を基に、よりよい方法や考え方を取り入れようとしている」86.4%（7月）→96.9%（12月）
→生徒同士の表現の学び合いや振り返りの充実による効果と考えられる。

◎ALTを活用したパフォーマンステストの充実

- ・授業アンケートの自由記述において、「英語で話すことが楽しい」との記述の増加
→スモールステップによる生徒の自信や達成感につながる指導の効果と考えられる。

◎基礎学力の充実

- ・県学習状況調査において、1・2年生ともに県平均を上回った。（1年生+3.5%、2年生+6.2%）

<課題>

- 場面が変わっても、見方・考え方を働かせ、既習事項を活用してコミュニケーションを図ることができる生徒の育成
→思考力を高める学習課題や言語活動の研究
- 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の見直し
→小中連携による生徒の学びと実態の再確認を通じた学習到達目標の設定
- 単元ゴールの設定、中間評価・パフォーマンステストの評価の在り方の研究
→教科部内での積極的な研修機会の設定

4. まとめ

「社会的な話題」を生徒がいかに自分事として捉え、英語でやり取りできるかを何度も話し合い、本校英語科スタッフはもちろんのこと、同じく拠点校の鶴舞小学校の先生方や地区内外の英語科の先生方からたくさんのご指導をいただき、本時の授業を創り上げた。特にALTのクリスチャン先生は、授業構想の段階から深く関わっており、「主体的にコミュニケーションを図り、自然なやり取りができる生徒」を育てるために、生徒の実態を把握し、その上でどうすれば英語の力を伸ばせるかを一緒に考え、授業構築に参画してくれた。本時の授業でも、クリスチャン先生は生徒の理解度を確認しながら、お互いに学び合えるように励ましてくれた。

本時では、ユニセフポスターのキャッチフレーズを切り口に、単元のゴールを設定し、帯活動を中心に必要なインプットを与え、アウトプットにつなげる授業を構築した。国際教養大学の町田智久教授から、「社会的な話題を、自分の身近な話題に落とし込んで発言させる、考えさせることが大切である」という指導助言をいただいた。社会的な話題を考える上で、非常に重要なことだと感じた。生徒同士のやり取りが促進するような手立て、表現の幅を広げられるような効果的なフィードバックをさらに研究していきたい。

第3学年D組 英語科学習指導案

指導者 池田 勇 作
ALT Christian Grande

1 単元名 Unit 5 A Legacy for Peace

2 目標

- 分詞や関係代名詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、平等な世の中について、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。【知識及び技能】
- 平等な世の中を目指して活動したガンディーの功績に関して、聞いたり読んだりしたことについて、自分の考えや気持ち、理由などを簡単な語句や文を用いて伝え合うことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 相手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。【学びに向かう力、人間性等】

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 分詞や関係代名詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 <技能> 平等な世の中について聞いたり読んだりしたことについて、自分の考えや気持ち、理由などを伝え合う技能を身に付けている。	自分の行動が世界平和につながるように、平等な世の中について聞いたり読んだりして、自分の考えや気持ち、理由などを簡単な語句や文を用いて伝え合っている。	自分の行動が世界平和につながるように、平等な世の中について聞いたり読んだりして、自分の考えや気持ち、理由などを簡単な語句や文を用いて伝え合おうとしている。

4 生徒の実態 (32名)

男女分け隔てなく、ペアやグループでの活動に取り組む学級である。10月に実施した英語科独自の授業アンケートでは、「英語の勉強が好き」という項目に対して、肯定的に捉えている生徒の割合は55%にとどまった。理由として、苦手であること、日本語と英語との構造が違うこと、内容の理解が十分でないことなどの理由が挙げられ、苦手意識をもっている生徒も少なくない。しかし、一方で「英語を得意になりたい」という項目に対して、肯定的に捉えている生徒が96%で、前向きな気持ちで臨んでいる。理由としては、「将来、社会の役に立つ」「考えるのが楽しい」の項目が多く挙げられた。

「話すこと(やり取り)」については、76%の生徒が肯定的に捉えている。理由としては、「英語でコミュニケーションを取ることが楽しい」「自分の言ったことを理解してくれるのがうれしい」「相手が使っている英語の表現方法を知ることができる」などが挙げられた。生徒たちは1年時から帯活動で、ある話題をペアで即興で話す”One minute talk”を行っている。1つの話題を複数回行うことで、話す表現の幅も広がり、即興でのやり取りへの抵抗感も軽減している。活動の振り返りシートで達成状況を見取り、必要に応じて支援やフィードバックを継続してきた。反面、社会的な話題になるにつれて、即興でのやり取りに関してうまくいかないと感じている生徒も増えてきた。特に「話したいことを英語でどう言ったらよいか分からない」「相手の言っていることがわからなくて、それに返すことが難しい」「会話を続けるためのコツが分からない」と感じていることがわかった。

そのために、帯活動で話したいことを生徒から引き出し、共有することで表現の幅を広げたり、相手の言っていることを聞き直したり、繰り返し聞いたりして理解度を確認しながら進めるなど、対話を継続する方法もその都度指導し、スムーズに対話が進められるようにすることが必要だと考える。

5 単元について

本単元は、フィリピン出身の Josh が、ガンディーの生涯や功績についての文章を聞いたり、読んだり、書いたりすることで、平和や人権の大切さについて理解を深めていく内容になっている。彼の人種差別との戦いは、後にキング牧師やネルソン・マンデラ、ダライ・ラマなどに受け継がれ、そして今もなお、スポーツ選手や著名人をはじめ、世界中の多くの人々が SNS などを通して、様々な差別撤廃を訴える行動につながっている。「平和」という大きなテーマから、ガンディーが実現しようとした「平等な世の中」という視点で、それぞれの考えを深めさせたい。

言語材料は、分詞、関係代名詞を扱う。生徒にとって理解するのが難しい文法項目の一つである。しかし、伝えたい情報を後から加えながら、人やものについて詳しく説明できたり、やり取りを行ったりすることができるようになる。

6 指導にあたって

(1) 主体的に学びに向かうための手立て

「平和」という社会的な話題を自分事として捉え、意見交換できるようにしたい。そのためには、教科横断的な要素も不可欠である。例えば生徒たちは、社会科の公民的分野で憲法の人権・平和主義について、道徳では国際紛争について、また英語科でも Mother's Lullaby を通して原爆の悲惨さについて学んでいる。これらを想起する場面を設定することで、平和について多面的な視点で考える一助としたい。

本時では、日本ユニセフ協会のポスターにあるキャッチフレーズ「すべての子どもに〇〇を」を参考に、お互い考えたキャッチフレーズを切り口として、平等な世の中のために自分は何ができるかに迫りたい。また、スムーズにやり取りできているペアを適宜取り上げることで、表現を学び合いながら伝えたいことを表現できるようになることを目指す。そして、自分の考えを積極的に発表することを称揚し、自己肯定感の向上にもつなげていきたいと考える。さらに、学習場面に応じてタブレット端末を活用し、学習内容をより深く調べたり、話したい表現を調べたりする場面に備える。

(2) 自己の成長を感じて学び続けるための手立て

単元の始めに、ユニセフのホームページから世界の子どもたちの意見を紹介し、単元全体の見通しを持つようにする。単元のゴールに向かって、One minute talk を取り入れ、既習事項を使って実際にやり取りをする活動を帯活動として設定する。その際に、伝え合う内容を考えたり、やり取りに必要な表現を想起したり、気付いたりできるようにする。また、同時に対話を継続・発展するために必要なスキルの定着を図る。そうすることで、本単元の学習の前後で英語の発話量や内容などについて、自分自身の成長が実感できるようにする。

本時では、ペアを組み替えながら、相手に応じて話す内容を変えたり、対話を継続したりする。ALT との役割分担を明確にして机間指導を行うことで、生徒のつまずきや既習表現を活用している例などを把握し、全体での深い学びにつなげていく。そして、生徒が英語で表現したいことを解決したり、互いの工夫を味わったりする場を設けたりすることで、生徒の表現の幅を広げられるようにする。さらに正確な英語で話せるように、話したことを書く時間を設定し、パフォーマンステストへとつなげていきたい。

◎「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標（第3学年）との関わりについて

【話すこと（やり取り）】

- 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて伝え合うことができる。
- 聞いたり読んだりしたことについて、ある程度準備をすれば、簡単な英語を用いて意見交換することができる。

7 全体計画 (総時数 12 時間 本時 10/12)

時	単元のゴールに向けた帯活動	学習のねらい	教師の支援	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	・ペア単1 ・ One minute talk 1-① What is the most important thing to you?	○単元のゴールがわかる。 ○ユニセフのポスターのスローガンの型がわかる。	○単元のゴールを確認する。 ○実際のポスターを使って意見を提示し、単元の見通しをもたせる。			
2	・ペア単2 ・ One minute talk 1-②	○名詞を修飾する文の形・意味・用法を理解することができる。	○教科書の英文で、接触節の部分に着目し、意味を推測したり、用法について確認したりする。	○名詞を修飾する文の形・意味・用法を理解している。		
3	・ペア単3 ・ One minute talk 1-③	○ジョシュのガンディーの紹介について、要点を捉えることができる。	○ガンディーが何で知られているかに注目しながら、概要を捉えられるようにする。		○ガンディーがどのような人かを理解するために、言葉に加えられた情報をもとに要点を捉えている。	
4	・ペア単4 ・ One minute talk 1-④	○関係代名詞 who を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。	○身近な人物の写真を用いて who を導入し、用法の定着を図る。	○関係代名詞 who を用いた文の意味・形・用法を理解している。		
5	・ペア単5 ・ One minute talk (writing)	○ガンディーがインドの独立のために何をしたのか、要点を捉えることができる。	○ピクチャーチャートを活用し、キーワードに着目して概要を捉えられるようにする。		○ガンディーがインドの独立のために何をしたか、要点を捉えている。	
6	・ One minute talk 2-① What do you think of Gandhi?	○国連でスピーチするマララさんの動画を見て、どう思ったかをペアで意見交換することができる。	○表現内容の適切さを振り返る場面を設け、修正できる機会を設ける。 ○英語で伝えたいが分からない表現や、既習事項をうまく活用している良い例などを取り上げ、全体で表現を学ぶ場を設ける。		○マララさんの国連でのスピーチを聞いて、簡単な語句や文を用いて、自分の考えや気持ち、理由などを伝え合っている。	○マララさんの国連でのスピーチを聞いて、簡単な語句や文を用いて、自分の考えや気持ち、理由などを伝え合おうとしている。
7	・ One minute talk 2-②	○関係代名詞 that, which を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。	○身の回りのものの写真を使って that, which を導入し、用法の定着を図る。	○関係代名詞を用いた文の意味・形・用法を理解している。		
8	・ One minute talk 2-③	○ガンディーの生涯と功績について、書かれた文章の概要を捉えることができる。	○デジタルブックを用いて、簡単な英語で説明を加えながら理解を促す。		○ガンディーの生涯と功績について書かれた文章の概要を捉えている。	
9	・ One minute talk 2-④	○ガンディーの生涯と功績について、時間軸に沿って説明することができる。	○生徒の理解度やキーワードを確認しながら、時間軸で話を追えるようにする。		○ガンディーの生涯と功績について、時間軸に沿って説明している。	
10 本時	「平等な世の中のために何が大切か」について	○平等な世の中のために何が大切か、ユニセフのポスター「すべての子どもに〇〇を」英語版を活用し、ペアで意見交換することができる。	○表現内容の適切さを振り返る場面を設け、修正できる機会を設ける。 ○英語で伝えたいが分からない表現や、既習事項をうまく活用している良い例などを取り上げ、全体で表現を学ぶ場を設ける。		○平等な世の中のために何が大切か、簡単な語句や文を用いて、自分の考えや気持ち、理由などを伝え合っている。	○平等な世の中のために何が大切か、簡単な語句や文を用いて、自分の考えや気持ち、理由などを伝え合おうとしている。
11		○資料から読み取った情報について、事実や意見を書くときの基本的な構成や表現を理解することができる。	○レポートの書き方を確認し、資料に基づいた情報と自分自身の感想や意見の部分を分けられるようにする。		○資料から読み取った情報について、事実と意見を整理し、まとまりのレポートを書いている。	
12	Unit 5 単元テスト	○後置修飾を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。	○日本語と英語との文構造の違いを確認する。	○後置修飾を用いて、情報を加えて説明する技能を身に付けている。	○要点を捉えたり、言葉に情報を加えて説明したりしている。	

			(単元テスト)	(単元テスト)	
後日	<p>○ALTに「平等な世の中のために何が大切か」について、自分の考えや気持ち、理由を伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。</p> <p>(パフォーマンステスト)</p>		<p>○平等な世の中について聞いたり読んだりしたことについて、自分の考えや気持ち、理由などを述べ合う技能を身に付けている。</p>	<p>◎自分の行動が世界平和につながるように、平等な世の中について聞いたり読んだりして、自分の考えや気持ち、理由などを簡単な語句や文を用いて述べ合っている。</p>	<p>◎自分の行動が世界平和につながるように、平等な世の中について聞いたり読んだりして、自分の考えや気持ち、理由などを簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。</p>

8 本時の展開 (10/12)

(1) ねらい

- 平等な世の中のために何が大切かについて、簡単な語句や文を用いて自分の考えや気持ち、理由などを伝え合うことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 平等な世の中のために何が大切かについて、簡単な語句や文を用いて自分の考えや気持ち、理由などを伝え合おうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 学習過程

段階	学習活動と予想される反応	学習への支援と評価	
		JTE	ALT
導入 7分	1 平等な世の中のために何が大切か、ユニセフのポスター「すべての子どもに〇〇を」を参考に、JTEとALTが英語でやり取りをする。 ・どんなキャッチフレーズが入るかな。 ・自分は「教育」が入るな。 ・私は「安心」だな。 ・私と同じ意見だ。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がイメージをできるように、相手の考えや気持ち、理由を引き出す質問などを使って、生徒の理解度を確認してやり取りを進める。 ・本時での、ゴールとなるやり取りの姿を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を使い、自分の考えや気持ち、理由などを言うときに役立つ表現をやり取りの中に入れて話す。
展開 33分	2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">平等な世の中のために何が大切か、自分の考えや気持ち、理由を伝え合おう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・JTEとALTとの対話から、対話を継続するために必要な質問を生徒から引き出す。 	
	3 1ペア2分間のやり取りを行う。また、ペアを変えて対話練習をする。 (例) S1: What's your catch phrase? S2: It's "communication" for every child. S1: Why do you think so? S2: Because it's important for us to talk with our friends and listen to them. S1: What can you do for that? S2: We should be kind to everyone. S1: I think so too. Any other ideas? S2: If we communicate with each other, we can understand well. S1: That's a good idea.	<ul style="list-style-type: none"> ・やり取りの中で分からない表現があれば、タブレットを使ってもよいことを伝える。 ・表現内容の適切さを確認するために、机間指導をする。やり取りがスムーズに進まないペアに、必要に応じてヒントを与える。 ・2巡目が終わったら中間評価に移る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現内容の適切さを確認するために、机間指導する。発話内容の正確さも確認し、共有に生かす。他の人が共通して使えそうな表現を用いている生徒を確認する。
	4 全体で表現を学び合う。(中間評価) ・疑問詞を使った質問をもっと使おう。 ・この表現は私も使ってみよう。 ・相手の意見に対して意味を確認したり、相づちを打ったりしてみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○やり取りがスムーズに進んだペアの表現を全体で確認し、どういうところが良いかを共有する。 ○対話を継続するためのヒントを必要に応じて提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○やり取りがスムーズに進んでいるペアを把握し、表現の共有に役立てる。 ○対話を継続するために、生徒が使っていた効果的な表現を紹介する。
	5 ペアを変えて、対話練習をする。 ・先生のアドバイスや、友達の対話の良いところを取り入れて、自分の考えなどを表現したいな。 ・One minute talk で使った内容も使ってみよう。	<p style="text-align: center;">【思考・判断・表現】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">平等な世の中のために何が大切か、簡単な語句や文を用いて、自分の考えや気持ち、理由などを伝え合っている。(観察・振り返りシート)</div>	
		<p style="text-align: center;">【主体的に学習に取り組む態度】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">平等な世の中のために何が大切か、簡単な語句や文を用いて、自分の考えや気持ち、理由などを伝え合おうとしている。(観察・振り返りシート)</div>	
まとめ 10分	6 平等な世の中のために何が大切かを数ペアに発表を促す。 ・相手の考えや気持ち、理由を引き出す表現を使ってみよう。 ・対話を継続・発展させるコツを実際に使ってみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・挙手または、意図的な指名で何組かの生徒に紹介を促す。 ・対話に不完全な表現があれば、全体で取り上げて修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話がスムーズにいかない場合、質問をして対話を促す。
	7 本時の学習を振り返る。 ・自分の考えや気持ち、理由を伝えられた。 ・今まで習ったことを使って意見交換ができた。 ・平等な世の中のために、自分たちでも小さなことからできることがありそうだな。 ・他の人の意見も納得できるものだったな。	<ul style="list-style-type: none"> ○できるようになったことなど、学習後の自分の変容について振り返りができるような視点を示す。 	

Quality Education
4 SDG

すべての子どもに、 を。

だれひとり、取り残さない。

Zero Hunger

Clean Water

Good Health

3 SDG

第66回 ユニセフ学校募金にご協力ください

子どもと先生の応援 授業

公益財団法人
日本ユニセフ協会 TEL: 03-5789-2014 www.unicef.or.jp 郵便番号口座: 00190-5-31000

unicef